

学び舎の数だけ志がある

学校創設者の肖像

古賀喜三郎の志

国家・社会に有為な人材の育成



古賀喜三郎 (1845-1914)

佐賀県出身。佐賀藩第10代藩主の鍋島直正に仕えた。蘭学や西洋砲術を学んだ経験や、渡米経験を機に、海軍教育を志す。1891(明治24)年、海城学園の前身となる海軍予備校を創設した。

●海城中学高等学校
東京都新宿区大久保 3-6-1

悲願だった海軍教育
「新しい紳士」を目指す

海城中学高等学校の歴史は1891年、元海軍少佐の古賀喜三郎が創立した海軍予備校に始まります。当時、海外と日本の窓口であった長崎港に接する佐賀藩に育つたことは、海に向こうに目を向け、海軍とともに生きる喜三郎の生涯を決定づけるものでした。

15歳のとき、佐賀藩主の鍋島直正に出仕を命じられ、陸軍所に配属。オランダ語で西洋砲術を学び

第67回

古賀 喜三郎

海城中学高等学校をつくった人

ました。当時の佐賀藩は、日本の藩よりも外圧の危機に瀕しており、先見の明のあった藩主・鍋島直正が若い力を登用することで、喜三郎は新しい学問を学ぶ機会を得ます。また20歳のときに藩の修習生として、長崎に停泊していた英国軍艦に乗り込み、西欧に対する新鮮な驚きを経験したこと

れから10年、現役を退いた喜三郎は、いよいよ海軍予備校の創立に取りかかりました。これが今の海城学園に連なっています。

喜三郎の目標は「国家・社会に有為な人材を育成すること」にありました。その理想の人物像の原型となっているのは、かつて英国軍艦に乗り込んだときに見た海軍士官(英国紳士)の姿でした。

のちに海軍に身を転じると、1880年には海軍大尉として軍艦筑波に乗り込み、米国への遠洋航海に従事、日本と米国の国力の差を目の当たりにしました。特に、世界の国々と競い、発展していくには優秀な人物と海軍教育が不可欠であるという喜三郎の思いは強烈でした。1875年、海軍士官学校の海軍兵学寮学監に任じられると、宿願の一つであった教育に携わります。また、1881年には自宅内に「一貫舎」という海軍志願者のための私塾を開いたほど。このときは喜三郎が現役将校だったことが問題視され、一貫舎はわずか1年で閉じましたが、そ

「そこにはまったく異質な人間関係があり、それでいて厳格な秩序があった。(中略)士官には儀容があり、特に服装の整っていることが印象的であった」

この建学の精神(社会に有為な人材の育成)は、今も海城の教育の根幹を為すものとして引き継がれています。グローバル化が進んだ今日、社会でそして世界で活躍できる人物として、現在の海城では「新しい人間力」(対話的コミュニケーション能力やコラボレーション能力)と「新しい学力」(課題設定・解決能力)とをバランスよく備えた「新しい紳士」の育成が目指されています。